

「市長と一緒にティータイム」対話概要

団体名 浜宿団地自治会
実施日時 令和5年5月28日（日）午後2時～3時40分
実施場所 浜宿団地自治会館
出席者 浜宿団地自治会 33人
市 3名
テーマ 袖ヶ浦市発展のための短期・長期展望等

浜団：自治会の活動等について回覧板を回していますが、パソコンを使って電子で送るようなシステムを取り入れ、若い人にも自治会活動への参加を促したいと考えています。市でも、ホームページの作り方を指導するなど、人的な支援をお願いします。



市長：デジタルでできるものについてはデジタルで行うと、利便性が向上します。パソコンなどの道具を使うことは苦手だという方もいますが、スマホはパソコンより使いやすく便利になる道具だと思っていただけるといいと思います。

自治会のデジタル化は、段階を踏む必要があります。ホームページを作ると維持や更新が大変になりますので、ひとつの例としては、LINEなどを活用して情報共有し、プッシュ型の通知をしてくれるものが使いやすいと思います。紙を併用

するかも含め、何をどのようにしたいのか、ステップを踏んで考えていきたいと思います。

浜団：市の電子化はどのようになっていますか。

市長：基本的に全て電子化となっておりますが、試行錯誤の上、紙に戻したものもあります。また、「来なくていい市役所」とするため、電子申請を進めており、現在300種類以上の手続きをデジタル化し、24時間いつでも申請可能としています。



浜団：高齢者もいることから、自治会の電子化に反対の立場の人もあります。

浜団：自治会の今後のことを考え、若い人に参画してもらいたいので、電子化を考えています。

市議：デジタル化には色々な方法があります。若い世代にも受け入れやすいよう、まずは回覧板から取り組むなど、やれるところから少しずつ進めてはどうでしょうか。電子化は、災害発生時の支援のお知らせなど、情報を共有しやすいというメリットがあります。



市長：これまでのお話を伺って、地域活動を守っていくための方法として、デジタル化という話が出たのだと受け止めております。地域で次につなげたいとのことだと思いますので、若い方にも知ってもらうという観点で見てもらえたらと思います。

浜団：災害対策について聞かせてください。



市長：市では、総合ハザードマップを作成し、全世帯へ配布しました。1000年に一度の大雨へのリスクや、地震で揺れやすい場所などが記載されています。WEB版では、がけ地等、より詳しく掲載していますので、参考にしてください、ご自身のお住まいの場所にどのようなリスクがあるのか確認して避難に役立ててください。

総合防災訓練は、今までとやり方を変え、5公民館に避難所を開設する等、実際に即した訓練としました。

浜団：備蓄倉庫には何が入っていますか。

市長：水、食料、赤ちゃんのおしりふきなど、様々なものが備蓄されています。しかしながら、市民全員の分はありません。災害時の初動の段階で必要となる水や食料等は各家庭においてストックしてください。

浜団：浜宿団地内に、ヤングケアラーや不登校はいますか。

市長：ヤングケアラーについては定義も明確になっていないことから、実数把握は難しいです。不登校については、総合教育センターで学びの場を確保するなどのサポートを行っています。



浜団：子ども医療費についてはどうですか。

市長：保護者の経済的負担を軽減するため、例外はありますが、15歳までであった対象年齢を、8月1日から18歳までに拡大します。

浜団：袖ヶ浦市には産婦人科がありませんので、誘致してください。

市長：袖ヶ浦市には産婦人科がありませんが、医療圏で見ると、「ある」という状況です。医師会と相談しながら、誘致をお願いしています。

浜団：議員さんにお尋ねします。代宿交差点は、毎朝とても渋滞しています。立体交差になる予定はありますでしょうか。

浜団：通学時間帯と重なると、大変な渋滞になっています。歩道の整備をするか立体交差にしてもらえるとありがたいです。議員さんたちが直接見て、協力してください。

市議：子供の見守りをやっていますが、確かに車通りが多く、混雑しています。代宿の本通りも大変混雑しています。今お話のあった交差点一か所だけを変えたからといってすぐに解消するものではなく、周囲全体を調べて考える必要があります。歩車分離式信号にしてもらいたいなどの要望も上がっていますが、どうするのが一番良いのか結論が出ていませんので、市とともに、検討していきたいと考えています。

市長：本日は、ありがとうございました。

